

初夏を思わせる陽気になりました。今月号も最新トピックスをお届けします。

## 国内動向

### ① OECD 毒性ガイドライン、ガイダンス文書の翻訳版公開(国立医薬品食品衛生研究所(NIHS))

NIHSは4月14日、下記のOECD毒性試験ガイドライン、ガイダンス文書の翻訳版を掲載した。

遺伝毒性に関するOECD毒性試験ガイドライン: TG473: 哺乳類のin vitro染色体異常試験(2014.9.26採択)、TG474: 哺乳類赤血球小核試験(2014.9.26採択)、TG475: 哺乳類骨髓染色体異常試験(2014.9.26採択)、TG487: 哺乳類細胞を用いたin vitro小核試験(2014.9.26採択)、TG488: トランスジェニックげっ歯類遺伝毒性試験(2013.7.26採択)、TG489: in vivo哺乳類アルカリコメットアッセイ(2014.9.26採択)、生殖毒性試験(TA43)及び神経毒性試験(TA20)に関するガイダンス文書。

<http://www.nihs.go.jp/hse/chem-info/oecdindex.html>

### ② 韓国、台湾からの情報提供を掲載((独)製品評価技術基盤機構(NITE))

NITEは、覚書(MOU)に基づき提供があった情報について掲載した。

・韓国化学物質管理協会(KCMA)からの情報提供: 化学物質の登録及び評価に関する法律(化評法)の優先評価化学物質(PEGs)リスト案について

・台湾安全衛生技術センター(SAHTECH)からの情報提供: 職業安全衛生法(職安法)の優先管理化学物質リスト案について

[http://www.nite.go.jp/chem/kanren/asia\\_kanren/mou\\_information.html](http://www.nite.go.jp/chem/kanren/asia_kanren/mou_information.html)

### ③ 製品含有化学物質の情報伝達のための共通スキーム「chemSHERPA」公開(経済産業省)

製品含有化学物質の情報伝達のための共通スキーム「chemSHERPA」に関するHPが、経済産業省管轄の下で公開された。「chemSHERPA」とは、サプライチェーンの川上から川下まで、共通の考え方に基づく情報伝達を実現することを目的とした、様々な製品業界で利用可能なスキームである。本スキームは、検証を踏まえた後、データ作成支援ツールの正規版として今秋リリースされる予定である。

[http://www.meti.go.jp/policy/chemical\\_management/other/cip\\_index.html](http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/other/cip_index.html)

<https://chemsherpa.net/chemSHERPA/>

## 海外動向

### ① 25 物質の重要新規利用規則を公表(米国環境保護庁(US EPA))

US EPAは5月8日、TSCAに基づき、25物質について重要新規利用規則(SNUR)の直接最終規則を公布した(7月7日に発効)。SNUR対象物質を製造、輸入する場合は、その化学物質のSNURの要件を遵守する必要がある。

<https://www.federalregister.gov/articles/2015/05/08/2015-11166/significant-new-use-rules-on-certain-chemical-substances>

### ② ビスフェノール A を生殖発生毒性物質リストに追加(カリフォルニア州環境保健有害性評価部(OEHHA))

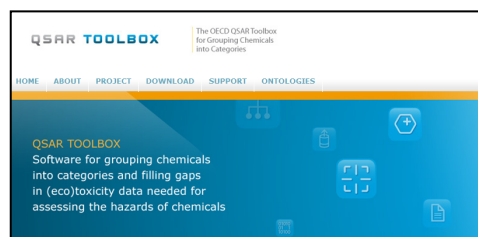
OEHHAは5月11日、ビスフェノールAをProposition 65の生殖発生毒性物質リストに収載することを公表した。

[http://www.oehha.ca.gov/prop65/CRNR\\_notices/list\\_changes/051115listBPA.html](http://www.oehha.ca.gov/prop65/CRNR_notices/list_changes/051115listBPA.html)

### ③ OECD QSAR ツールボックスの Web セミナー開催(欧州化学品庁(ECHA))

6月17日17:00-19:00(日本時間)、OECD QSARツールボックスのWebセミナーが開催される。

[http://www.echa.europa.eu/view-webinar/-/journal\\_content/56\\_INSTANCE\\_DdN5/title/oecd-qsar-toolbox](http://www.echa.europa.eu/view-webinar/-/journal_content/56_INSTANCE_DdN5/title/oecd-qsar-toolbox)



## 特集 ④⑥ : GHS/SDS 対応 CERI のサポートメニュー

GHS(化学品の分類及び表示に関する世界調和システム)による危険有害性の分類とラベル表示、安全データシート(SDS)は、化学品を取り扱う事業者間での情報伝達ツールとして、国内はもちろん世界各国で導入が進められており、益々重要となっています。

SDSは様々な情報から構成されます。化学品の危険有害性の要約として、GHSに従った危険有害性を記載するほか、危険有害性に応じた取扱い上の留意事項、作業環境における許容濃度、輸送上の対応等、化学品を安全に取り扱うための様々な情報を網羅する必要があります。

CERIではご提供情報に基づくGHS分類/SDS作成はもちろんのこと、GHS分類/SDS作成に必要な試験・調査のプランニングも含め、トータルサポートを行っています。次号以降で関連する各種サポートメニューについてご紹介します。



## お知らせ

### 第20回化学物質評価研究機構研究発表会の開催

7月10日(金)、東京(大手町、経団連会館)において、第20回化学物質評価研究機構研究発表会を開催します。本機構職員による研究発表及び技術報告などのほか、基調講演として経済産業省製造産業局化学物質管理課長 山内 輝暢氏をお迎えし、ご講演していただきます。参加登録は無料です。是非、ご来場くださいますようお願い申し上げます。

[http://www.cerij.or.jp/event/event\\_study\\_2015.html](http://www.cerij.or.jp/event/event_study_2015.html)

### 化学物質管理ミーティング 2015 への出展

6月19日(金)、東京・浜松町にて行われる化学物質管理ミーティング2015へ出展します。また、12時55分から「化学物質管理とCERIからのソリューション」と題して、試験とコンサルティングとの最適な組合せによる、お客様の製品とブランドへの付加価値を重視した化学物質管理の提案に関するプレゼンテーションを行います。事前登録の場合、参加費は無料です。<http://www.cdsympo.com/cm2015/>

### 書籍「ICH M7 変異原性不純物の開発段階からの評価・管理と申請/CTD記載法」発売

5月28日(木)、サイエンス&テクノロジーから書籍「ICH M7 変異原性不純物の開発段階からの評価・管理と申請/CTD記載法」が発売されます。菊野職員が「第5章 ICH M7をふまえた変異原性予測・評価の実践～変異原性情報収集及び(Q)SAR/in silico法の特性、データ解釈と評価」について執筆を担当しています。 <http://www.science-t.com/st/cont/id/23943>



ご質問等ございましたら、以下の連絡先にお気軽にお問い合わせください。

**CERI**

一般財団法人 化学物質評価研究機構  
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル7F  
安全性評価技術研究所 研究第二部  
Tel: 03-5804-6136 (担当者: 石井(聡)、菊野、林)  
URL: <http://www.cerij.or.jp> Email: [cac-reach@cerij.jp](mailto:cac-reach@cerij.jp)